

# 平林地域まちづくり協議会 通常総会資料



日時 平成30年4月6日(金) 午後7時  
会場 平林ふれあいセンター

## □ 総会次第

---

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 来賓祝辞
4. 総会成立報告
5. 議長選出
6. 議事録署名人選任
7. 議事

議第1号 平成29年度事業報告及び収支決算の承認について

議第2号 平林地域まちづくり計画（案）の承認について

議第3号 平成30年度事業計画（案）及び収支予算（案）の承認について

議第4号 平林地域まちづくり協議会役員の承認について

8. 議長退任
9. その他
10. 閉会

○表紙写真の紹介

集落名 宿田

氏名 武者 進一

作品名 水辺の楽校

（平成29年度まちづくり写真展で出品いただいたものです）

議第 1 号

平成 29 年度事業報告及び収支決算の承認について

平成 29 年度事業報告及び収支決算について、別紙のとおり承認を求めます。

平成 30 年 4 月 6 日 提出

平林地域まちづくり協議会 会 長 松本 富雄

平成 30 年 4 月 6 日 承認

平林地域まちづくり協議会 総会議長 遠山 周平

□ 平成29年度 活動報告

項目	開催日	内容	出席者	
通常総会	H29. 4. 7 (金)	H28年度事業報告及び収支決算、H29年度事業計画(案)及び収支予算(案)	41	
運営委員会	第1回目	H29. 5. 10 (水)	H29年度スケジュール、元気づくり応援事業審査、平林小学校運動会について	12
	第2回目	H29. 6. 14 (水)	交流事業、平林小学校文化祭について	11
	第3回目	H29. 7. 14 (金)	まちづくりアンケート調査、交流事業について	20
	第4回目	H29. 9. 6 (水)	交流事業詳細、まちづくり写真展について	14
	第5回目	H29. 9. 27 (水)	まちづくり写真展、交流事業詳細について	19
	第6回目	H29. 11. 8 (水)	交流事業及びまちづくり写真展の反省、まちづくりアンケート報告会について	14
	第7回目	H29. 12. 9 (土)	研修会、集落課題解決取組報告について	11
	第8回目	H30. 1. 17 (水)	現まちづくり計画事業評価と次期まちづくり計画について	15
	第9回目	H30. 2. 21 (水)	次期まちづくり計画、H30年度事業計画について	13
	第10回目	H30. 3. 14 (水)	H30年度事業予算、総会について	13
平林小学校運動会	H29. 5. 20 (土)	学校と連携し、まちづくり競技として2種目を運営	190	
平林小学校文化祭	H29. 10. 21 (土)	学校と連携し、まちづくり写真展を開催	200	
地域交流事業前日準備	H29. 10. 7 (土)	草刈りなど会場準備	11	
地域交流事業 「交流芋煮会と川部ハイキング&荒川クリーン作戦」	H29. 10. 8 (日)	川部ハイキング 荒川クリーン作戦 交流芋煮会 アトラクション(宿田) 集落対抗〇×クイズ 餅まき	363	
平林地域住民アンケート調査報告会	H29. 11. 22 (水)	住民アンケート調査の集計・分析結果の報告、意見交換	29	
視察研修	H29. 11. 29 (水)	新潟県地域づくりセミナー(会長出席)	1	
第1回 神林地区まちづくり協議会連絡会議	H29. 6. 27 (火)	神林地区住民アンケート調査について(会長、副会長出席)	2	
第2回 神林地区まちづくり協議会連絡会議	H29. 11. 2 (木)	住民アンケート調査の集計・分析結果報告について(会長、副会長出席)	2	
第3回 神林地区まちづくり協議会連絡会議	H30. 1. 11 (木)	住民アンケート分析結果のまちづくり計画への反映について(会長出席)	1	
神林地区内各種団体懇談会	H30. 1. 24 (水)	神林地区公民館主催(会長出席)	1	
視察研修	H30. 2. 17 (土)	地域づくり自慢大会(会長出席)	1	
一般研修会	H30. 3. 4 (日)	コミュニティ支援成果発表会、意見交換	42	
平林城跡保存会との合同会議	H30. 3. 6 (火)	平林地域交流事業と平林城跡おやすみどころ竣工式典について(会長、副会長出席)	2	
広報誌発行	H29. 6. 1	第14号		
	H29. 10. 1	全地域版第7号		
	H30. 2. 1	第15号		
	H30. 3. 15	全地域版第8号		

□ 平林小学校運動会



□ 平林小学校文化祭



□ 地域交流事業「交流芋煮会と川部ハイキング&荒川クリーン作戦」



□ 研修ほか

1. 新潟県地域づくりセミナー



2. 集落課題解決取組



3. 地域づくり自慢大会



4. 一般研修会



□ 集落活動支援事業 報告

集 落	松 沢	事業名	里山と田畑の恵や又カエビを活用した製品開発事業	
実施日・期間	6月18日～11月5日		参加者数	236 人
総事業経費	101,957円		交付金額	71,500 円
事業内容	里山を拡大し、檜の萌芽再生調査、原木の調達、棒注連(ぼうじめ)、竹細工、マエモ(マツザワのエビで作ったモチ)を作った。			
事業効果	本年度は里山拡大での山菜採り、畑作物を活用したイベント、エビ掬いやマエモ、棒注連、竹細工、原木作りを行うことができ、参加者も昨年より増えたことをみると多少生きがいを感じ、健康寿命も延びているようだ。それを裏付けるように66才以上が83名(人口221名)だが寝たきりは極めて少ない。			

①



②



③



④



⑤



⑥



□ 集落活動支援事業 報告

集 落	小岩内	事業名	小岩内収穫祭		
実施日・期間	8月27日		参加者数	85	人
総事業経費	98,153円		交付金額	36,750	円
事業内容	市の防災訓練に合わせ、収穫祭が行われました。当日は子どもから大人まで大勢の方が参加し、集落の男性が作った料理を食べながら、親睦を図りました。				
事業効果	日々忙しい中、年に一度のイベントに子供から大人まで多くの参加者が有り、特に女性から大変喜ばれ大成功であった。これからも親睦を図れるよう続けたい。				



□ 集落活動支援事業 報告

集 落	川 部	事業名	屋号と焼き印の表札作成事業	
実施日・期間	通 年		参加者数	7 人
総事業経費	22,200円		交付金額	22,200 円
事業内容	希望する世帯の屋号と焼き印をセットで作成し、玄関前に表札として掛けた。(平成29年度と平成30年度の2か年で作成する)			
事業効果	今の子どもや若い人たちが知らない、屋号や各家の焼き印の文化を後世に伝える。			





□ 集落活動支援事業 報告

集 落	川 部	事業名	高座椅子購入	
実施日・期間	通年		参加者数	700 人
総事業経費	17,940円		交付金額	17,800 円
事業内容	集会所に高座椅子を3台購入し、会議やいこいの茶の間、昔の映画を観る会、老人クラブの集まりなどに利用する。			
事業効果	高齢化の進展に伴い、足腰の悪い人が急速に増えており、その人たちが長時間座っていることが困難であったが、気兼ねなく集会所に集まることが可能となった。			



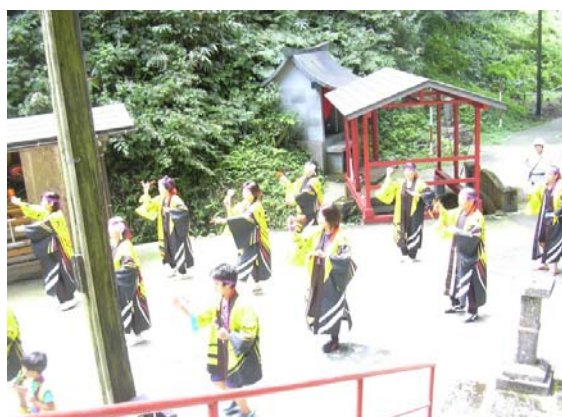
□ 集落活動支援事業 報告

集 落	湯ノ沢	事業名	観桜会・カラオケ大会	
実施日・期間	4月16日	参加者数	40	人
総事業経費	37,811円	交付金額	37,700	円
事業内容	各団体より、実行委員を招集して、準備会議を行い役割分担を決め、会場の飾りつけ、買い出しを行い、当日はトン汁を作り、ゲームやカラオケを行い親睦を深めた。			
事業効果	区民の交流が深まり、集落の人達の連携活性化が図られた。			



□ 集落活動支援事業 報告

集 落	湯ノ沢	事業名	よさこいソーラン船玉神社奉納	
実施日・期間	8月	参加者数	26	人
総事業経費	7,328円	交付金額	3,000	円
事業内容	夏休み中毎朝ラジオ体操終了後によさこいを練習し、8月20日に船玉神社に奉納した。			
事業効果	皆でおどり絆を深め、よさこいメンバーが一つになりチームワークが良くなった。			



□ 集落活動支援事業 報告

集 落	葛籠山	事業名	炊き出し訓練	
実施日・期間	10月8日		参加者数	67 人
総事業経費	41,578円		交付金額	40,450 円
事業内容	平林地域交流事業に合わせ、防災訓練の一環として炊き出し訓練を行い、芋煮に加え、参加者におにぎりを配った。			
事業効果	準備段階から、各種団体が協力して行い、一つの輪になった感じがした。			



□ 集落活動支援事業 報告

集 落	平林	事業名	県の名水セト坂の水周辺整備事業	
実施日・期間	4月5日～7月30日		参加者数	150 人
総事業経費	132,559円		交付金額	85,550 円
事業内容	要害山の頂上の立岩から落下したと言われている大石の捜索を行い、セト坂の水周辺とカヤ平のケヤキ、大石までの遊歩道の整備を行った。			
事業効果	地域資源を活かす当活動により、地元住民はもとより、観光協会、商工会と連携した活動へ発展し、賑わいが創出され、地域の団結力が高まりつつある。			



□ 集落活動支援事業 報告

集 落	宿 田	事業名	観桜会	
実施日・期間	4月9日		参加者数	106 人
総事業経費	65,105円		交付金額	32,000 円
事業内容	各団体から実行委員を出してもらい、準備から当日の運営まで行った。雨天だったので屋内での実施となったが、餅つきやわたあめ、ポップコーンなどで楽しく親睦を深めた。			
事業効果	幼児から年配の方まで一同に会し、住民の交流と親睦を深めると共に、集落の活性化が図られた。			



□ 元気づくり応援事業 報告

集 落	松 沢	事業名	パインバレー湿原周辺環境調査整備事業	
実施日・期間	5月27日～11月5日		参加者数	153 人
総事業経費	138,500円		交付金額	100,000 円
事業内容	浮橋の整備と散策図作成、植物調査、周辺の草刈りを行った。			
事業効果	パインバレー周辺の散策道も整備され、図面もできたことにより区民の関心も増し、特に子どもたちの数が増えたことでそれに連れられ、区民の参加者が多くなったようである。			

①



②



③



④



⑤



□ 元気づくり応援事業 報告

集 落	小岩内	事業名	集落活性化事業	
実施日・期間	通年		参加者数	50 人
総事業経費	22,400円		交付金額	11,200 円
事業内容	腰らく曲木座椅子を5台購入し、区、農家組合、まちづくり協議会、茶の間の会等集落全般の会合で活用する。			
事業効果	茶の間の会に出席した人より、足、腰の悪い人が多く大変良いものを買ってもらい有り難いと喜んでくれた。			





□ 元気づくり応援事業 報告

集 落	川 部	事業名	集落交流事業	
実施日・期間	3月25日		参加者数	70 人
総事業経費	65,133円		交付金額	53,000 円
事業内容	子どもからお年寄りまで一緒にビンゴゲームや餅つき、各家庭で使わないものを出してもらいバザーを行うなど、多くの人に参加してもらい楽しく交流を深めた。			
事業効果	子供たちとの交流と高齢者の一人世帯や高齢者だけの世帯が、気楽に買い物やごみ出し、雪かきなどを頼める雰囲気を作られた。			



□ 元気づくり応援事業 報告

集 落	湯ノ沢	事業名	集落運動会	
実施日・期間	6月10日～9月10日		参加者数	58 人
総事業経費	81,728円		交付金額	70,000 円
事業内容	年三回のグラウンド整備(草刈り、草刈後の後片付け)、打ち合わせ会議、プログラム作成、景品の買い出しと当日の運営を行った。40年間継続してきた事業である。			
事業効果	運動会を通じて、老若男女、世代間の交流を図り、親睦、絆を深めることができた。			



□ 元気づくり応援事業 報告

集 落	葛籠山	事業名	集落住民交流事業	
実施日・期間	8月5日	参加者数	92	人
総事業経費	91,575円	交付金額	50,000	円
事業内容	荒川花火大会当日、集落各種団体が協力し、葛籠山夏祭りを実行。老若男女が大勢集まり、バーベキューを行ったり、花火を鑑賞したり交流を深めた。			
事業効果	各世代の交流として最高の場であった。協力することにより1つのものが出来上がっていきさまがありありと見えた感じがする。			



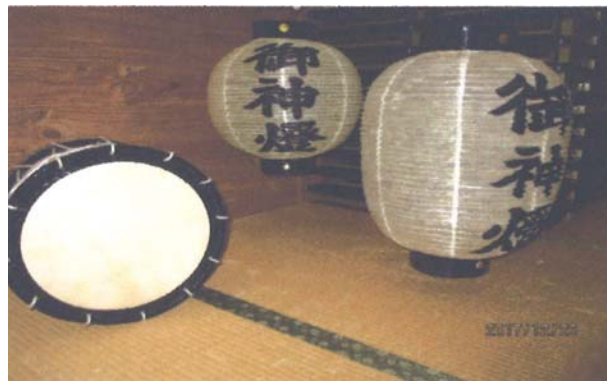
□ 元気づくり応援事業 報告

集 落	平 林	事業名	イルミネーション事業	
実施日・期間	11月9日～1月8日		参加者数	75 人
総事業経費	122,718円		交付金額	100,000 円
事業内容	平林集落をPRするために国道脇農村公園に巨大なツリーを立て電飾の飾りつけを行い、点灯した。			
事業効果	各種団体が一丸となり、イルミネーションの製作に関わったことにより、集落の団結力が高まり賑わった。区内外に集落をPRすることができた。			



□ 元気づくり応援事業 報告

集 落	宿 田	事業名	伝統文化復活事業	
実施日・期間	7月20日～8月25日		参加者数	180 人
総事業経費	117,248円		交付金額	100,000 円
事業内容	お祭り運営会を中心に獅子舞、剣舞等の練習や準備、神楽の運営、後片付け等行った。			
事業効果	伝統ある神楽をみんなで传承していく気風が生まれつつある。			



## 平成29年度 平林地域まちづくり協議会 収支決算書

収入

(単位:円)

区 分	当初予算額	補正額	補正後予算額	決算額	比 較	説 明
1 地域まちづくり交付金	1,658,000	0	1,658,000	1,658,000	0	地域まちづくり交付金
2 繰越金	343,090	0	343,090	343,090	0	前年度繰越金
3 諸収入	910	0	910	6	▲ 904	利息等
合 計	2,002,000	0	2,002,000	2,001,096	▲ 904	

支出

区 分	当初予算額	流用額	流用後予算額	決算額	比 較	説 明
1 地域振興費	450,000	0	450,000	396,297	53,703	
1 地域交流事業	450,000	0	450,000	396,297	53,703	地域交流イベント(芋煮会経費、バスレントル等)
2 研修費	120,000	0	120,000	64,880	55,120	
1 研修事業	120,000	0	120,000	64,880	55,120	研修旅費:県地域づくりセミナー(1,000円) 研修旅費:地域づくり自慢大会(1,000円) 一般研修:お茶代等(8,983円) 話し合いの場づくり:集落課題解決取組(7,251円) アンケート調査:分析報告費用他(46,646円)
3 地域コミュニティ支援経費	852,000	0	852,000	831,150	20,850	
1 集落活動支援事業	367,000	0	367,000	346,950	20,050	各集落の事業を支援
2 元気づくり応援事業	485,000	0	485,000	484,200	800	手上げ方式による支援事業
4 安全安心な暮らし対策事業	50,000	0	50,000	48,880	1,120	
1 安全安心な暮らし対策事業	50,000	0	50,000	48,880	1,120	学校等との連携:平林小学校運動会(19,656円)、平林小学校文化祭(29,224円)
5 健康・福祉増進経費	15,000	0	15,000	0	15,000	
1 ささえあいの地域づくり事業	15,000	0	15,000	0	15,000	敬老会参画
6 環境保全・改善経費	10,000	0	10,000	0	10,000	
1 環境整備事業	10,000	0	10,000	0	10,000	
7 組織運営経費	448,000	184	448,000	394,517	53,483	
1 役員報償費	262,000	0	262,000	262,000	0	会長 32,000円×1 副会長 22,000円×1 運営委員 17,000円×12 監事 2,000円×2 計 262,000円
2 費用弁償	21,000	0	21,000	0	21,000	
3 会議費	20,000	0	20,000	19,624	376	会場借り上げ料500×12回=6,000円 お茶代等
4 消耗品費	20,000	0	20,000	15,315	4,685	コピー用紙、事務用品等
5 印刷製本費	120,000	0	120,000	92,394	27,606	まちづくり新聞
6 口座振替手数料	5,000	184	5,184	5,184	0	口座振替手数料
8 予備費	57,000	▲ 184	56,816	0	56,816	
合 計	2,002,000	0	2,002,000	1,735,724	266,276	


収入額合計                      支出額合計                      次年度繰越額  
 2,001,096                      -                      1,735,724                      =                      265,372


平成 29 年度 監査報告

平林地域まちづくり協議会の平成 29 年度事業報告書及び収支決算書について、通帳、出納簿並びに関係書類を監査し結果、適正に処理、記載されていると認める。

以上

平成 30 年 4 月 1 日

監事 小池清一 

監事 塚原絵美 

議第2号

平林地域まちづくり計画（案）の承認について

平林地域まちづくり計画を制定したいので、別紙案により承認を求めます。

平成30年4月6日 提出

平林地域まちづくり協議会 会長 松本 富雄

平成30年4月6日 承認

平林地域まちづくり協議会 総会議長 遠山 周平



## □ 平林地域まちづくり計画

### 1. 平林地域の現状

平林地域は、平林小学校区の松沢、小岩内、川部、湯ノ沢、葛籠山、平林、宿田の7集落からなり、人口1,835人、世帯数578（H30.1.1住民基本台帳）の神林地区内では2番目に人口の多い地域です。

南に日本一の「清流荒川」を抱き、東に推定樹齢850年の巨大姥杉が生育している薬師岳があり、古くから信仰の対象となってきました。

また、この地域には、歴史的資源が多く、最も代表的なのは、国指定平林城跡と市の文化財に指定されている千眼寺の保呂羽堂があります。各集落では、伝統芸能が盛んで川部の大神楽（市の無形文化財指定）、小岩内の獅子舞、松沢獅子舞、宿田の剣舞など、何世代にもわたり、大切に継承されてきました。

圃場整備された広大な田園が広がり、主たる産業は農業ですが、農業従事者数は年々減少しています。

平成29年度に行われた住民アンケート調査では、この地域に住み続けたい、愛着があると答えた人が約6割で、これまでの活動が地域への誇りや愛着につながっていることが確認できました。しかし、世代別・男女別による住民ニーズや地域の課題が改めて浮き彫りとなり、今後さらなる人口減少と高齢化が見込まれる中、対応が求められています。

【人口・世帯数等の推移】

（国勢調査より）

	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年 (推計)
人口(人)	2,395	2,289	2,162	1,946	1,816	1,673
	← 20年間で24.2%減少 →					
0～14歳	421	345	273	212	191	202
	← 20年間で54.6%減少 →					
15歳～64歳 (生産人口)	1,462	1,372	1,310	1,148	986	813
	← 20年間で32.6%減少 →					
65歳～ (高齢者率)	512 21.38%	572 24.99%	579 26.78%	586 30.11%	639 35.19%	658 39.33%
	← 20年間で24.8%増加 →					
75歳～	199	251	317	332	320	310
世帯数(世帯)	560	568	557	554	555	

※2015年の高齢者率 新潟県平均:29.85% 全国平均:26.63%

## 地域の将来像 自然と文化、ひとがかがやく平林

- 豊かな自然環境を維持し文化を育む郷さと
  - ・清流荒川や国史跡平林城跡をはじめとした地域資源や自然環境の維持整備
  - ・ごみ減量やリサイクル運動、エコ活動の推進
  - ・平林地域の伝統や文化への理解を深め、次世代への継承を支援
- 一人ひとりの良さをいかした安心で活力ある郷さと
  - ・地域基盤の整備と住民への参画を促す情報発信
  - ・地域の課題解決と住民交流を推進することと、そのための基盤づくり
  - ・人材育成
  - ・地域産業、コミュニティビジネスの発掘、開発
  - ・災害時の避難対応
- 笑顔いっぱい、支えあう元気な郷さと
  - ・心と体の健康づくり
  - ・生活弱者を支える仕組みづくり
  - ・女性の社会参加への推進
  - ・ボランティア養成
  - ・敬老会の実施

### 事業計画年度（実施年度：平成 30 年度～平成 32 年度）

基本方針	事業項目	実施年度			備考
		30	31	32	
豊かな自然環境を維持し文化を育む郷	環境整備事業	▶			
	地域資源の発掘と活用	▶			
	伝統文化を守り受け継ぐ取り組み	▶			
一人ひとりの良さをいかした安心で活力ある郷	交流事業の実施	▶			
	地域の課題解決のための基盤整備と人材育成	▶			コミュニティ支援を含む
	安全安心な暮らし対策事業	▶			
笑顔いっぱい、支えあう元気な郷	健康づくり	▶			
	ささえあいの地域づくり	▶			
	敬老会事業	▶			実行委員会人的支援

※いずれの事業も集落、他団体と連携して取り組む。

議第 3 号

平成 30 年度事業計画（案）及び収支予算（案）の承認について

平成 30 年度事業計画（案）及び収支予算（案）について、別紙案により承認を求めます。

平成 30 年 4 月 6 日 提出

平林地域まちづくり協議会 会 長 松本 富雄

平成 30 年 4 月 6 日 承認

平林地域まちづくり協議会 総会議長 遠山 周平

## □平成30年度事業計画

区 分	事業名、取組項目	実施 時期	対 象	取 組 内 容	備 考
1 地 域 の 課 題 解 決、地 域 振 興 及 び 交 流	(1) 地域交流事業				
	交流事業の実施	10月7日	全世帯	地域内の親睦と交流を図るため、平林城跡保存会と連携して交流事業を実施する。	
	(2) 地域の課題解決のための基盤整備と人材育成				
	まちづくり研修会の実施	通年	全住民	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域住民を対象とした研修会や視察研修などを開催し、まちづくり活動のあり方や取り組みを学ぶ。</li> <li>地域の課題解決や活性化に向けた話し合いの場づくりに取り組む。</li> </ul>	
	(3) 地域コミュニティ支援事業				
	地域コミュニティを支援する	通年	集落	集落の課題解決や活性化を図ることを目的として、集落事業に対して支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>松沢区の里山と田畑の恵を活用した商品開発事業</li> <li>小岩内避難訓練及び収穫祭</li> <li>川部屋号と焼き印の表札作成、高座椅子購入</li> <li>湯ノ沢観桜会・カラオケ大会、よさこいソーラン船玉神社奉納</li> <li>葛籠山集落防災訓練</li> <li>平林集落史跡整備事業</li> <li>宿田観桜会</li> </ul>	松 沢 小 岩 内 川 部 湯 ノ 沢 葛 籠 山 平 林 宿 田
集落			地域の課題解決や活性化に意欲的な取り組みをする集落の活動に対し、手上げ方式により支援を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>松沢パインバレー湿原周辺整備及び動植物調査事業</li> <li>小岩内衛生管理事業</li> <li>川部集落交流事業</li> <li>湯ノ沢集落運動会</li> <li>葛籠山集落住民交流事業</li> <li>平林イルミネーション事業</li> <li>宿田伝統文化復活事業</li> </ul>	松 沢 小 岩 内 川 部 湯 ノ 沢 葛 籠 山 平 林 宿 田	

区 分	事業名、取組項目	実施 時期	対 象	取 組 内 容	備 考
1 地 域 の 課 題 解 決、地 域 振 興 及 び 住 民 交 流	(4) 安全安心なくらし対策事業				
	安全安心な暮らし対策事業	通年	全住民	安心安全に暮らしていくために高齢者や子供を守る防犯活動や災害時における避難対応について、老人クラブ、学校、PTA、自主防災組織等と連携して活動に取り組む。	
2 健康及 び福祉の 増進	(1) ささえあいの地域づくり事業				
	ささえあいの地域づくり事業	通年	全住民	ささえあいの地域づくりのため、神林地区生活支援協議体※と連携して、地域の茶の間支援や健康教室など健康・福祉事業に取り組む。 ※神林地区生活支援協議体とは、高齢者が住み慣れた地域で生活できるよう支援する仕組みづくりを目的とした組織。	
		6月16日	75歳以上	敬老会事業に対し、人的支援を行う。	主催:実行委員会
3 環境の 保全及び 改善	(1) 環境整備事業				
	環境整備事業	通年	集落	荒川クリーン作戦や集落単位での環境整備に取り組む。	
			全住民	新たな魅力を探し活用するため地域資源宝の発掘に取り組む。	

## 平成30年度 平林地域まちづくり協議会 収支予算

### 収 入

(単位:円)

区 分	本年度	前年度	比 較	説 明
1 地域まちづくり交付金	1,644,000	1,658,000	▲ 14,000	地域まちづくり交付金
2 繰越金	265,372	343,090	▲ 77,718	前年度繰越金
3 諸収入	628	910	▲ 282	利息等
合 計	1,910,000	2,002,000	▲ 92,000	

### 支 出

区 分	本年度	前年度	比 較	説 明
1 地域振興費	450,000	450,000	0	
1 地域交流事業	450,000	450,000	0	地域交流イベント
2 研修費	80,000	120,000	▲ 40,000	
1 研修事業	80,000	120,000	▲ 40,000	研修視察、一般研修、課題解決に向けた話し合いの場づくり
3 地域コミュニティ支援経費	850,000	852,000	▲ 2,000	
1 集落活動支援事業	362,000	367,000	▲ 5,000	各集落の事業を支援
2 元気づくり応援事業	488,000	485,000	3,000	手上げ方式による支援事業
4 安全安心な暮らし対策事業	50,000	50,000	0	
1 安全安心な暮らし対策事業	50,000	50,000	0	学校等との連携
5 健康・福祉増進経費	15,000	15,000	0	
1 ささえあいの地域づくり事業	15,000	15,000	0	ささえあいの地域づくり、敬老会参画
6 環境保全・改善経費	10,000	10,000	0	
1 環境整備事業	10,000	10,000	0	地域資源の発掘、荒川クリーン作戦
7 組織運営経費	429,000	448,000	▲ 19,000	
1 役員報償費	262,000	262,000	0	会長 32,000円×1 副会長 22,000円×1 運営委員 17,000円×12 監事 2,000円×2 計 262,000円
2 費用弁償	21,000	21,000	0	1,000円×21名=21,000円
3 会議費	20,000	20,000	0	会場借り上げ料500×12回、お茶代等
4 消耗品費	20,000	20,000	0	コピー用紙、事務用品等
5 印刷製本費	100,000	120,000	▲ 20,000	まちづくり新聞
6 口座振替手数料	6,000	5,000	1,000	口座振替手数料
8 予備費	26,000	57,000	▲ 31,000	
合 計	1,910,000	2,002,000	▲ 92,000	

※ 区分の予算支出に不足が生じた場合は、他の区分から流用することができるものとする。

議第 4 号

平林地域まちづくり協議会役員の承認について

平林地域まちづくり協議会役員の選出について、次のとおり承認を求めます。

平成 30 年 4 月 6 日 提出

平林地域まちづくり協議会 会 長 松本 富雄

平成 30 年 4 月 6 日 承認

平林地域まちづくり協議会 総会議長 遠山 周平

(敬称略)

役 職	新任者	前任者
会 長	松本 富雄	松本 富雄
副 会 長	木村 竜也	木村 竜也
監 事	田村 秀行	小池 清一
監 事	杉上 春雄	塚原 絵美

□ 平林地域まちづくり協議会 役員運営委員名簿

(敬称略)

役 職	氏 名	集 落	備 考
運営委員	横山 めぐ美	松 沢	
運営委員	南間 文子	松 沢	
運営委員	松本 佐一	小岩内	
運営委員	松本 富雄	小岩内	
運営委員	佐藤 稔	川 部	
運営委員	佐藤 勉	川 部	
運営委員	小池 利也	湯ノ沢	
運営委員	小池 政勝	湯ノ沢	新任
運営委員	鈴木 将利	葛籠山	
運営委員	斎藤 潤	葛籠山	
運営委員	木村 竜也	平 林	
運営委員	武者 秀雄	平 林	新任
運営委員	遠山 一秋	宿 田	新任
運営委員	遠山 佳秀	宿 田	

□ 平林地域まちづくり協議会 代議員名簿

(敬称略)

	氏 名	集 落	備 考
1	佐藤 巧	松 沢	区長
2	田中 ますみ	松 沢	
3	阿部 剛	松 沢	
4	高野 博光	小岩内	区長
5	高野 紀子	小岩内	
6	高野 尚子	小岩内	
7	佐藤 幸夫	川 部	区長
8	佐藤 剛	川 部	
9	佐藤 里夏	川 部	
10	小池 清一	湯ノ沢	区長
11	佐藤 昌美	湯ノ沢	
12	小池 美保	湯ノ沢	
13	田村 秀行	葛籠山	区長
14	杉上 春雄	葛籠山	
15	齋藤 知代	葛籠山	
16	遠藤 正行	平 林	区長
17	木村 清美	平 林	
18	佐藤 知江	平 林	
19	遠山 周平	宿 田	区長
20	遠山 まき	宿 田	
21	遠山 愛	宿 田	



## 平林地域まちづくり協議会規約

平成24年3月13日制定

平成25年4月12日改正

(目的)

**第1条** 本会は、平林地域の豊かな自然環境や文化を未来への贈り物とし、この地に暮らす人々それぞれの良さを活かし、お互い知恵を出し合い、協力し合って、活気と魅力あふれる地域を目指し活動することを目的とする。

(名称)

**第2条** 本会は、平林地域まちづくり協議会と称する。

(事務所)

**第3条** 本会の主たる事務所は、神林支所地域振興課自治振興室(村上市岩船駅前56番地)に置く。

(事業)

**第4条** 本会は、第1条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 地域の課題解決、地域振興及び住民交流に関すること。
- (2) 健康及び福祉の増進に関すること。
- (3) 安全及び安心に関すること。
- (4) 環境の保全及び改善に関すること。
- (5) 地域資源の有効活用に関すること。
- (6) 地域の産業振興に関すること。
- (7) コミュニティビジネス等地域経営に関すること。
- (8) その他、まちづくりに関し、特に必要なこと。

(構成)

**第5条** 本会は、平林地域に居住する人及び平林地域で事業を行う個人若しくは法人、又は平林地域で活動する各種団体をもって構成する。

(役員)

**第6条** 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 1名
- (3) 監事 2名

**2** 会長、副会長は、運営委員会において委員の互選により選出し、総会の承認を得る。

**3** 監事は、運営委員会において代議員の中から選出し、総会の承認を得る。

(役員職務)

**第7条** 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

**2** 副会長は、会長を補佐し、会長に事故その他やむをえない事情により職務を遂行できないときは、その職務を代行する。

**3** 監事は、本会の事業及び会計の執行状況を監査し、総会に報告する。

**4** 必要に応じて、その他の役員を置くことができる。

(役員任期)

**第8条** 役員任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

2 補欠により選出された役員任期は、前任者の残任期間とする。

3 役員は、任期終了後においても後任者が就任するまでの間は、その職務を行うものとする。

(報償費及び費用弁償)

**第9条** 役員等に対し、報償費及び費用弁償を支払うものとする。

(運営委員)

**第10条** 運営委員は、平林地域の居住者で、別表により各集落から選出された14名とする。

2 運営委員は、運営委員会において総会に付議する事項及び本会の運営に関することを審議する。

3 運営委員任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

4 補欠により選出された運営委員任期は、前任者の残任期間とする。

5 運営委員は、代議員を兼務することができない。

(代議員)

**第11条** 代議員は、次により選出する。

(1) 平林地域を構成する集落区長。ただし、集落区長が第10条に定める運営委員に選出された場合は、その代理者とする。

(2) 平林地域の居住者で、別表により集落推薦を受けた者とする。

(3) 本会の趣旨に賛同し、その活動に参画する者で、運営委員会の承認を受けた者とする。

2 代議員は、総会において運営委員会が提案する議題を審議し、議決する。

3 代議員任期は2年とする。ただし、再任は妨げない。

4 代議員に欠員が生じた場合の補欠の任期は、前任者の残任期間とする。

5 代議員は、運営委員を兼務することができない。

(会議)

**第12条** 本会の会議は、総会、運営委員会とする。

(総会)

**第13条** 総会は、代議員をもって構成する最高の議決機関であり、本規約に定める事項のほか、本会の目的を達成するために必要な事項を審議、決定する。

2 総会は、通常総会及び臨時総会とし、会長が招集する。

3 通常総会は、毎年度1回開催し、臨時総会は、会長が必要と認めるとき、又は、代議員の3分の1以上の請求があった場合に開催するものとする。

4 総会の議長は、出席代議員のうちから選出する。

5 総会は、代議員の2分の1以上の出席により成立するものとする。

6 総会の議事は、出席者の過半数で議決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

7 総会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 地域まちづくり計画の策定及び変更に関すること。
- (2) 規約の制定及び改正に関すること。
- (3) 会長、副会長、監事の承認に関すること。
- (4) 事業計画、事業報告、予算及び決算に関すること。
- (5) その他、重要事項に関すること。

(総会の議事録)

**第14条** 総会の議事については、次の事項を記載した議事録を作成しなければならない。

- (1) 日時及び場所
- (2) 出席者数
- (3) 開催目的、審議事項及び議決事項
- (4) 議事の経過の概要及びその結果
- (5) 議事録署名人の選任に関する事項

2 議事録は、議長及びその会議において選任された議事録署名人2人以上が署名押印し、事務所に備え付けておかなければならない。

(運営委員会)

**第15条** 運営委員会は、会長、副会長及び運営委員をもって構成する。

- 2 運営委員会は、総会に付議する事項及び本会の運営に関することを審議、決定する。
- 3 運営委員会は、会長が招集する。
- 4 運営委員会の議長は、会長がこれにあたる。
- 5 運営委員会は、運営委員の2分の1以上の出席により成立するものとする。

(事務局)

**第16条** 本会の円滑な運営及び事業実施に資するため、事務局を置く。

- 2 事務局には事務局員を置き、地域振興課自治振興室職員を充てる。
- 3 事務局員は、本会の事務及び会計事務を処理する。

(会計)

**第17条** 本会の運営等に係る経費は、地域まちづくり交付金、その他収入をもって充てる。

- 2 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 3 年度開始後に予算が総会において議決されていない場合、会長は総会において予算が議決される日までの間は、前年度の予算を基準にして収支をすることができる。

(事業計画及び収支予算)

**第18条** 本会の事業計画及び収支予算は、運営委員会の承認を得た後、総会の議決を得なければならない。

(監査)

**第19条** 会長は、事業年度終了後、事業報告書、収支決算書及び積立金台帳を作成して監事に提出し、その監査を受けなければならない。

- 2 監事は、前項の書類を受領したときは、これを監査し、監査報告書を作成して会長に報告するとともに、会長はその監査報告書を総会に提出しなければならない。

(書類及び帳簿の備付け)

**第20条** 本会の主たる事務所には、本会の事業実施に係る書類、収入及び支出に関する証拠書類並びに帳簿等活動に関する全ての書類を備え付け、公開するものとする。

(個人情報保護の取扱い)

**第21条** 本会が、各種取組みを推進するため必要とする個人情報の取得、利用、提供及び管理については、適正に運用するものとする。

(その他)

**第22条** この規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項は、会長が運営委員会に諮り、別に定める。

### 附 則

この規約は、平成24年3月13日から施行する。

改正後の規約は、平成25年4月12日から施行する。

(別表) (第10条、第11条関係)

集 落	定 数
松 沢	2 名
小岩内	2 名
川 部	2 名
湯ノ沢	2 名
葛籠山	2 名
平 林	2 名
宿 田	2 名

ただし、年齢、性別等を考慮することとする。

自然と文化、人がかがやく平林

## 平林地域まちづくり新聞

Vol. 15  
2018年  
2月1日号

## 住民アンケート調査の集計結果と分析がまとまりました。

報告会での意見交換の様子



平成29年7月から8月にかけて実施した住民アンケート調査の集計結果と分析がまとまり、平成29年11月22日(水)、平林ふれあいセンターを会場に、報告会を開催しました。報告会では、まちづくりの協議会の代議員や運営委員を対象に、都岐沙羅パートナーズセンターの事務局長斎藤王税さんから、アンケートの分析結果を報告いただいたのち、出席者同士で意見交換を行いました。アンケート結果の概要とポイントは下記のとおりです。

## アンケート結果から見えるポイント①

アンケート結果	ポイント
---------	------

## アンケートの実施と回収率

中学生以上の全住民と対象にアンケートを実施。  
回収率は74.1%! (配布 1,685、回収 1,249)

かなりの高回収率! 住民の意向がしっかりと反映されているデータといえる。

## 回答者属性

回答者の半数近くは60代以上。  
農業従事者の80.0%が60代以上。

世代別に意見をまとめないと若い世代の声が埋没する。  
将来的に農地の維持管理が心配される。

## 日常的な交通手段



80代になると車を運転する人の割合が減少する。  
(70代→80代: 男性▲32.9%、女性▲49.7%)

日常生活での移動が困難になる人が確実に増加する!  
移動支援を今から考えていく必要があるのでは?

## インターネットの利用割合

全体の半数以上(52.6%)がインターネットを利用。  
(50代以下は約8割、30代以下は約9割)  
(大半がスマートフォン、携帯電話で利用)



50代以下はインターネット経由での情報伝達が効果的?!  
(閲覧板は若い世代の人が見ないうちに回ってしまっていることがある?)

## 地域活動への関心

※地域活動: 地域や集落の活動や共同作業、まちづくり協議会等の活動、地域の祭り・行事・イベントなど

全体では「関心はあるが参加していない」の回答がトップ。(27.0%) その理由の大半は、「余裕がない」。

必ずしも「地域活動に参加していない＝関心がない」というわけではない。多様な関わり方を検討したり、直接対話したりすることが必要。

「関心はないが、付き合いで参加」の理由は、「頼まれた」が第2位。(29.7%)

一人ひとりをお願いすることで参加につながる可能性がある。

20代男女、30代男性は、「関心はなく、参加したいとも思わない」の回答割合が多世代に比べて極端に高い!

現状は30~70代の方々の頑張りでも地域活動が回っている。将来に向け、次の世代の人たちの声に真摯に耳を傾ける必要があるのでは?



## アンケート結果から見えるポイント②

アンケート結果	ポイント
<b>女性・若者の声を反映する必要性</b>	
地域全体では半数以上が「必要」と考えている。60代男性（役員世代）は7割超、30代以上は半数以上が「必要」と回答。	お互いにその気はある！声を反映させる場や機会、仕組みについて充足させる必要がある。 
<b>移住・定住者の受け入れの必要性</b>	
「必要」と考えている割合は約4割。特に30代、40代が高い。	必要性は薄々感じているが、まだ今ひとつ実感がない。今後を考えて話し合いを徐々に進める段階。
<b>他地域との交流の必要性</b>	
地域全体では1/3以上が「わからない」と回答。「必要」という考えもほぼ同じ割合。	必要性は薄々感じているが、まだ今ひとつ実感がない。今後を考えて話し合いを徐々に進める段階。
<b>この地域に住み続けたいと思うか？</b>	
全体では約6割の方が「住み続けたい」と思っている。（かなり高水準！）ただし、10代、20代は「住み続けたいとは思わない」の割合が比較的高い。	若い世代は「わからない」と回答した割合が多い。幼少の頃から愛郷の心を育む取り組みを！地域への愛着→定住へ。
<b>自分の子どもにも住み続けてほしいと思うか？</b>	
地域全体では「住み続けてほしい」が4割強。子育て中の親世代（特に30代、50代女性）の「住み続けてほしい」の割合が地域平均より低い。（約3割）	親世代の考えが、子に影響する可能性があるので注意が必要！（将来的な人口流出の引き金になるかもしれない…）
<b>地域への愛着</b>	
「愛着がある」と答えた人は60.3%で、決して低い数値ではない！世代間の差もあまり大きくなく、どの世代もこの地域に愛着があることがうかがえる。	世代間のギャップが少ないのはいい兆候で、今後も地域全体で郷土愛を育てていくことが大切。 
<b>誇りに思う地域資源は？（複数回答）</b>	
全体でのトップ5は ① 景観・自然環境 45.6% ② 諸行事（祭り、イベント等） 27.1% ③ 暮らす人々 23.5% ④ 名所・旧跡 21.5% ⑤ 助け合いなどの社会関係 19.5%	これまで地域で大切にされてきた自然環境や人と人との関係、伝統行事を始めとした地域・集落の諸行事が、誇りや愛着につながっていると言える。一方で若い世代では「無い」と答える割合も高く、世代間の意識の違いにも目を向ける必要があるのでは？
<b>近所づきあいでの悩みは？（複数回答）</b>	
全体の約6割が「悩みなし」と回答しているが、年代別に見ると30～60代では「忙しすぎる」、80代では「仲間がほしい」という悩みが全体平均より高い。	人は減っているが、役割・仕事量が変わらなければ負担感が増す。今後想定される人口減少に備え、地域・集落の運営の方法や組織の体制について検討を始める必要がある。

## アンケート結果から見えるポイント③

アンケート結果	ポイント
---------	------

### 暮らしの中での困りごと(複数回答)

全体でのトップ5は		
① 玄関先の雪のけなどの冬季の除雪 21.0%		70代でトップ。(20代以上はどの世代でも2位もしくは3位) ほぼすべての世代で上位にランクイン。
② 健康面への不安がある 18.8%		60代以降になると上位にランクイン。 自らの健康について不安視している人が多い。
③ 災害への備えや避難 16.6%		ほぼすべての世代で上位にランクインし、地域共通の困りごと(心配ごと)と言える。地域全体で防災意識や防災力の向上が求められる。
④ 農地や山林の維持管理 13.6%		40代以降で上位にランクイン。(50代は第1位) 30代以下の関心は低い。
⑤ 仕事・雇用に関すること 13.3%		働く世代で上位にランクイン。 (20~50代で1位もしくは2位)

### 【まとめ、注意点など】

- ・世代別の困りごとにも分析して丁寧に着目することが重要。(少数派である若い人の意見が埋もれやすいので注意！)
- ・「医療体制に不便を感じる(全体6位)」は、30~70代で上位。子育て、親の介護という面で困りごとになっている!?
- ・「仲間と気軽に集まる場所がない(全体8位)」は、10~20代で上位にランクイン。(10代では第2位)
- ・「買い物・通院などの移動手段(全体7位)」は、80代のみ上位にランクイン。(80代の第3位)

### 取り組みの満足度と重要度の評価

これから重点的に取り組むべきテーマのトップ5は		
① 婚活イベント、紹介など、結婚対策		50代以上は圧倒的に将来に向けてこれが大切だという評価。
② 状況把握・持ち主との交渉など、空き家の管理活動		30~60代はこの必要性を強く感じている。 人口減少・流出の影響か?!
② 見回りなど、防犯・交通安全活動		30~40代は特にこれを求めている。
③ 子育てなどの相談ができる場や人について		30~40代は特にこれを求める傾向が強い。
④ 買い物・通院など、移動支援活動		30~40代はこの必要性を強く感じている。自分の親や祖父母世代への移動支援を求めている。

### 【年代別集計による特記事項(その世代で重要だと思っているもの)】

- (30~60代) ・避難訓練・連絡体制など、防災活動 ・見守り、配食サービスなど、生活支援活動、 ・登下校の見守りなど、子どもの安全を支える活動 ・保護者同士が交流できる場 ・住民との交流や空き家紹介など、定住受け入れ活動
- (50代以上) ・農地・山林などの維持管理
- (すべての世代) ・草刈り・河川清掃など、道路・河川の維持管理 ・日常的な不安や悩みが相談できる場や人

### 全体まとめ

- 将来に向けた対策を講じる前に、まずは冷静に地域の現状を理解することが重要。  
(思い込みだけでいろいろな取り組みを進めると、現状とのズレから空振りに終わる可能性があるので注意！)
- 少子高齢化や人口減少など大きな社会情勢の変化。これからの地域づくりは、今までの延長ではなく時代に即した進化が必要！
- 若者・中堅世代(これからの地域の担い手)は少数派。丁寧に意見を聴かないと(分析しないと)、多数派(中高齢者層)に埋没してしまう。

## 自由記入のご意見・ご提案など(抜粋)

- ・村上市内の全体的な雰囲気として、どこことなく閉鎖的な感覚を抱いてしまう。(中略) 他を受け入れる寛容さや柔和な気持ちや雰囲気がもっとあると、さらに素晴らしい村上市になると感じます。私は、静かでのどか、自然が豊かな村上市が大好きです。(20代、男性)
- ・地域の住民が住みやすい環境を維持していくには、防災、防犯、インフラの整備、人付き合い、負担の少ない地域活動など、住民同士知恵を出し合っていかなければならない。(60代、男性)
- ・高齢者が多くなり、入所出来ず居宅で介護を受けている人、介護している人が、まだまだ多く大変だとの声が多く聞こえます。支援事業所をお願いしたい。なるべく高額で無く、負担額をおさえて出来ないものか。居宅介護にも何か考えてほしい。(70代、女性)
- ・公民館を夏、冬休みや土日祝日に開放して、勉強できるようにして下さい。上級生にとっても下級生にとっても教え合うことが小学生のうちからできて良い経験になると思います。(10代、女性)
- ・自分の地域は、近所付き合いはそれなりに良く、近所同士は良いと思いますが、イベントがあまりなく、あっても地域の人あまり参加していない事が大変だなと思いました。(10代、男性)
- ・地域のお年寄りが、ほぼ毎日のように集まり一日過ごせる場所が各集落にあればいいと思います。市で立ち上げ、徐々に集落の皆さんが協力し合い運営できるような地域づくりができれば元気なお年寄り、世話好きなおかあさん、お年寄りをいたわる子供達が助け合いながら生活できるのではないのでしょうか。ふれあいセンターを毎日オープンにしてお年寄りを中心にだれでも立ち寄る事のできる「茶の間」ができればいいと思います。(50代、女性)
- ・祭や七夕など昔から続いている行事はこれからも続けて行ってほしい。とても楽しく参加させてもらっている。お楽しみ会などの会も毎年楽しみにしている。(10代、女性)

## アンケート報告会での意見(抜粋)

アンケート報告を聞いてのご意見、ご感想	今後地域でどのような取り組みが必要？
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年代別の意見が確認できて、大変参考になり、課題解決に役立てたい。</li> <li>・アンケートの各項目について、目に見えて問題が浮き彫りになったと思う。この問題を地域でどのように取り組んで行くかが重要であり、このデータを材料に事業を進めていきたい。</li> <li>・地域活動への関心について、関心はあるが参加していないという人がけっこういるので、役員から声をかけた方が良かったと思った。</li> <li>・もう少し10代・20代からの意見を言える場を設けた方が良かったと思った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・この分析をふまえ、集落全体で検討していきたい。</li> <li>・この7集落で、もっと話し合いの機会を作った方が良い。</li> <li>・地道に小さい事を重ねていくしかないのかなあ。</li> <li>・子育て世代としては、仕事や学校行事・地域行事などしなければいけないことが多く、とても忙しく思います。人口が減っているのに、やる事が同じでは、負担が大きいです。何か魅力がないと、今後も減っていくばかりだと思います。</li> </ul>

### ご意見・ご感想・問い合わせは

- 神林支所地域振興課自治振興室
- 電話・告知端末 66-6122
- メール  
k.shinko-chiiki@city.murakami.lg.jp
- ホームページ URL  
http://www.city.murakami.lg.jp/



「平林地域まちづくり協議会」で検索してください。  
※アンケート結果の詳細は、村上市のホームページをご覧ください。このページがおすすめです。

「ご意見をお寄せください」  
当協議会では、来年度から始まる第3期まちづくり計画(3力年)を検討しています。このアンケート結果などをふまえ、各集落で話し合いを進めていただき、これからの地域づくりにつなげていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。



## 平林地域まちづくり協議会

---

村上市神林支所地域振興課内

〒959-3492

村上市岩船駅前 56 番地

電話、告知端末：0254-66-6122

FAX：0254-66-6110

<http://www.city.murakami.lg.jp/site/hirabayashi/>